

横中連携

YOKOCHURENKEI NEWS

2013年2月

VOL.9

社会保険横浜中央病院 発行

ニュース

院長から

「救急科と総合診療病床の運用が 開始されました」

社会保険横浜中央病院 院長 大道 久



日頃からご厚誼をいただいている地域の医療機関の先生方、また多くの関係者の皆様、本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。横浜中央病院は、従来にも増して連携強化を図り、地域包括ケア体制の拠点として、地域のお役に立つように努力して参りますので、引き続いでご支援を賜りますようお願い致します。

さて、当院では新年早々に、「救急科」を標榜して運用を開始しました。通常の診療時間帯で救急搬送された患者さん、及びご紹介いただいた患者さんについては、原則として全て診させていただき、入院が必要な場合は受け入れさせていただきます。運用開始後まだ間がないことから、受け入れに当たってご迷惑をおかけすることがあるかもしれません、各診療科の協力体制を整えて対応致したいと思いますので、どうぞご活用ください。当院で診療を受けたことがある患者さんはもとより、近隣にお住まいのご家族のお立場からも面会や通院に便利な場合、あるいは退院後の在宅療養の手配や関係機関との連絡・調整が必要な場合など、地域に根差した病院としてきめ細かくお世話をさせていただきますので、このような場合は是非お問い合わせください。

また、救急科の稼働と同時に、「総合診療病床」の運用を開始しました。近年はご高齢の患者さんが急速に増加しており、いくつかの傷病が合併してそれが悪化し、いずれも治療が必要な場合が少なくありません。また、一人暮らしや家族からのお世話が期待できない患者さんの場合など、一つの診療科だけでは受け入れが困難、あるいは社会的な背景を踏まえた対応が必要な患者さんにご利用いただくために「総合診療病床」を運用することとしました。在宅で療養継続中の患者さん、あるいは介護施設や長期療養施設で療養中の患者さんで入院が必要となった場合、かかりつけの診療所の先生方や関係機関からのご紹介で、ご依頼に沿った対応をさせていただきます。当院の訪問看護サービスや退院調整チームが地域に出向いて、直接ご要望を承る機会も増やそうと考えています。また、医療福祉相談室との連絡・調整の頻度も多くなると思いますが、そのような機会にご遠慮なくお問い合わせください。

当院は、高齢化がさらに進む地域にあって、医療・介護の連携も一層に緊密にするために、近く「地域ケアサービス・センター」を設置して、関係者の皆様からのお問い合わせの窓口とし、患者・住民の皆様が必要とする包括的な地域ケアサービスの調整の場としたいと考えています。今後とも、宜しくご理解とご協力を願い申し上げます。

総合診療病床の運用開始にあたって

脳神経外科 部長 森 達郎

CKDと脳卒中、COPDに心不全と認知症など。長寿社会を迎えて、高齢患者さんは様々な病気を抱えています。一方で医療技術の進歩、治療の高度化は医療を細分化し、専門に特化した縦割りの医療が中心となってきています。

92歳のパーキンソン病の患者さんは、病期の進行で歩行が不安定になり、転倒して大腿骨を骨折し、寝たきりに近い状態になってしまいました。食欲もなく、るいそうがめだつようになり、誤嚥も繰り返しています。年老いた認知症の妻と二人暮らしで、通院もままならなくなってしまいました。このような患者さんはいったいどの診療科にかかればよいのでしょうか？またどの診療科が対応すべきなのでしょうか？

診療科の垣根を越えた医療チーム、これが総合診療病床立ち上げの根幹です。当たり前のことでありますが、病気を診るのではなく、患者さんを診ようという古き良き臨床医、私たちの先輩ドクターのスタイルにチーム一丸で近づけたら、そんな理念でスタートします。総合診療部は古くて新しい、いや、新しくて実は古くからあるスタンダードな臨床スタイルなのでしょう。幸い、当院には経験豊富なりハビリスタッフやマネジメントに長けた医療ソーシャルワーカー、完成度の高い栄養サポートチーム、緩和ケア、皮膚・排泄ケア、感染管理、糖尿病看護、摂食・嚥下障害看護のエキスパートナースもそろっています。小回りの利く機動性の高い総合的な診療を提供することで地域医療への貢献を目指します。おみせします！横中のパフォーマンスを!!

感染管理について

初めまして、私は感染認定看護師の吉田と申します。今年の4月から感染の専従看護師となりました。感染管理の目標は、病院に居るすべての方々の安全な環境を提供する事です。そのためには、私はカメラ片手に毎日、院内ラウンドをしながら感染の危険性の有る場面、場所などをスクープしながら時には「査察の人」と呼ばれています。



院内組織として現場ではインフェクションコントロールチーム（ICT）、リンクナースが活動し、院内の安全な環境を提供するため頑張っています。

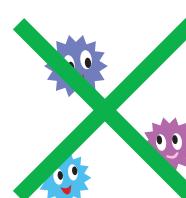
具体的な活動内容は

①感染に対しての取り組み

- ・患者接触時の手洗いの指導
- ・防護具（手袋、ビニールエプロン、マスク）の使用方法
- ・感染廃棄物の取扱い（リネン類、注射器）
- ・環境面での清掃の方法

②アウトブレイク予防

- ・インフルエンザ、ノロウイルス等



今年から入院基本料等加算において感染防止対策加算1を申請しており、他の病院との連携を取りながら、お互い情報の共有やデスカッショを行いお互いの環境や指導内容を改善しています。

他の病院を訪問し、お互いの改善点について意見交換するという試みは初めての事ですが、自分たちが行って来た内容を評価してもらうという事は活動の成果でもあるため今後も継続していきたいと思っています。

評価の後も問題点の相談や情報の交換など繋がっておりとても良い関係が続いております。皆様方の中で何か相談や応援できることがありましたら、ご協力させて頂ければと思っております。是非ご連絡下さい。

地域医療研修を 終えて *



* 初期臨床研修医 永田善之

今回の研修は、横浜市中区医師会長である、向山小児科医院院長の向山先生にご多忙の中ローテーションを組んで頂き、行わされました。どこの施設に行っても施設関係者は私が向山先生の名前を出すと、お世辞でなく感謝しており、そこにはお互いの信頼関係が感じられました。向山先生は小児を取り巻く多くの病気はもちろんのこと、進路のこと、成長していく上でのトラブルに関しても気にかけ、総合的に小児を見るという姿勢で医療を行っており、横浜市の地域に密着した施設等にも頻繁に顔を出し、お互いの意見交換を十分にし、地域との信頼関係を築き上げていました。

救急外来、ICU管理、手術などのいわゆる総合病院での「救う医療」から離れ、その救う医療を地域医療として「支える医療」を、今回の研修を通して見る事ができました。また、地域医療の実践には医師と地域との信頼関係が大切ということを理解できました。

* 初期臨床研修医 矢作善之

昨年の9月に地域医療研修でクリニック、養護学校、保健所などを回らせていただきました。私は研修医になってから病棟業務を中心に行っていたため、地域医療研修では毎日が初めて見ることの連続で非常に有意義な時間を過ごすことができました。印象に残ったのはどの先生方も診察が本当に丁寧だということです。改めて診察の基本は視診、聴診、触診など直接患者さんを見て行うものだと実感致しました。他にも訪問看護では退院後の患者さんの生活が少しですが見ることができたのがよかったです。

最後になりますが今回の研修の計画をして頂いた向山先生をはじめ、多くの方々にお世話になりましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

* 副院長（臨床研修委員会委員長） 海津嘉蔵

初期臨床研修医を当院で受け入れを始めたのは平成17年からです。当初4人から開始しましたが、受け入れにあたり、指導者の講習を当院の部長・医長のほぼ全員が一泊二日で葉山の国際村で研修を行いました。当院独自の立派な指導用マニュアルと研修プログラムを作成し新研修医を受け入れに備えました。このように、僅か数名の研修医でも受け入れ側にとっては大変な準備を必要とするものです。今回、地域医療研修を中区医師会長向山先生にお願いしたところ、短い準備期間でありましたが、大変立派なプログラムを作っていただき、丁寧に指導していただきました。感謝感謝あります。向山先生はじめ関係者各位に、今後も当院の地域医療研修を長くお願いしたいと期待しています。

『新しい組織への移行に向けて』

事務局長

村越 悟

社会保険病院等の新たな受け皿についての法律案は、2011年6月に独立行政法人『年金健康保険・福祉施設整理機構(RFO)』を改組した『地域医療機能推進機構』という新たな組織が病院の管理・運営を継続し、地域密着型の病院として存続させるという法案が可決・成立しました。思い起こせば、平成14年以来、病院存続に関して、当院をご利用くださる患者様とご家族様や地域医療を担う先生方に対しまして、ご不便やご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。

私たちは、約1年後の平成26年4月より、『地域医療機能推進機構 横浜中央病院』として、新たにスタートします。地域医療機能推進機構(以下『新機構』といいます)は、社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院と共に新しい病院グループを形成します。神奈川県内では、社会保険相模野病院、湯河原厚生年金病院、横浜船員保険病院と同じ看板を掲げます。また、本年4月より当院の付属施設である横浜看護専門学校(横浜市南区中村町)の運営に横浜船員保険病院(遠山院長)が、新たに参画する予定です。

今まで担ってきた急性期医療に加え、新機構の新たな使命の一つに『地域包括ケアの連携の要となること』が挙げられています。人口の年齢別構成の劇的な変化とそれに伴う医療体制の変化に応じて、急性期病院や回復期リハ、療養型病床、それから在宅医療を担うクリニック、訪問看護や介護等、当院をご利用なさる患者様に加え、地域の皆様についても切れ目がなく、療養や介護がスムーズに行える体制を支援します。

かつて、国民皆保険制度の導入と同時に医療提供する病院を政府管掌健康保険の保険者であった、社会保険庁が自ら病院を開設し、健康保険と病院整備の両輪を築いた歴史的な役割を終え、新たに地域包括ケアの連携体制の構築を支援して参ります。今後も地元の先生方、看護師、ケアマネや療養と介護・福祉を支える皆様と神奈川県や横浜市等の関係者のご意見やご指導を基に、この地域に則した地域医療が一層充実するよう尽力致します。どうぞ、引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。

第6回 社会保険横浜中央病院地域医療交流会

～地域密着の救急受入れと在宅療養支援～

日時：平成25年3月21日(木) 19:00～

場所：ローズホテル横浜

新設した救急科と総合診療病床の紹介をさせていただくと共に地域の先生方より当院への要望等、活発な意見交換の場とさせていただきたいと考えております。

皆様方の
ご参加をお待ち
しております。



Social Insurance Yokohama Central Hospital

社団法人全国社会保険協会連合会

社会保険横浜中央病院

〒231-8553 横浜市中区山下町268

TEL : 045(641)1921 FAX : 045(671)9872

URL : <http://www.yokochu.jp>